

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：24402

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730490

研究課題名(和文)オペライズモの理論形成と世界的受容の調査研究

研究課題名(英文)Survey research on the theoretical formation and its global magnitude of Operaismo.

## 研究代表者

櫻田 和也 (Sakurada, Kazuya)

大阪市立大学・都市研究プラザ・特任講師

研究者番号：70555325

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円、(間接経費) 960,000円

研究成果の概要(和文)：有名な1970年代イタリア「アウトノミア運動」に先立つ理論であったオペライズモには独自の社会階級論があった。これがのちに労働概念の再考を迫るフェミニズムやポスト・フォードイズム論の基礎となる。ところが一次資料が顧みられることはめったになく、近年ようやく世界的な再評価を背景に近年イタリアでも基本文献が再版されるようになった。本研究では世界的な研究動向におけるその位置を確認しつつ、オペライズモ研究の空白を埋めるべく、その理論形成過程を検証し、巨大なインパクトをもたらした世界的な受容過程を探求した。

研究成果の概要(英文)：Italian 'Operaismo,' or the theoretical precedent of 'Il movimento' as known as 'Autonomia' in the '70s, had incubated a unique social thought of the Class which has become the basis of the feminism reclaimed wages for housework and of critical sociology on post-Fordist mode of production. It's original materials and classical publications had been out of print for long time, however, new anthologies and reprints has been published these days in light of the global study of post-War Marxism. We investigated such resources from the point of view of the theoretical formation and global magnitude of Italian Operaismo.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：社会思想 調査方法論 オペライズモ ポストフォードイズム 社会センター アーカイヴ イタリア  
国際情報交流

### 1. 研究開始当初の背景

1970年代イタリア「アウトノミア運動」に先立つ理論であったオペライズモは、独自の社会調査論・社会階級論をもっていた。後にこれが労働概念の再考を迫るフェミニズムやポスト・フォーディズム論の基礎となる。ところがフランスの構造主義にも匹敵する思想的インパクトを有したにもかかわらず、その一次資料が顧みられることはめったになく、近年ようやくイタリアにおいても世界的な再評価を背景に、基本文献が相次ぎ復刻・再版されるようになった。

### 2. 研究の目的

本研究にあたっては、世界的な研究動向における、その理論的な位置を再確認しつつ、オペライズモ研究の空白を埋めること、その理論形成過程を検証すること、そして巨大なインパクトをもたらした世界的な受容過程を解明すること、以上諸点を目的とした。

### 3. 研究の方法

基本的な手順としては、以下のような方法をとった。すなわち、まず貴重な一次資料を蓄積する文書館等の紙誌目録をとりまとめ、基本文献を踏査・必要に応じて収集し、英仏語圏への翻訳経路や相互参照の構造的分析を行ない、持ち帰った新発見事項・文献資料等をオペライズモ研究会にて詳細に検討する。さらに文書館責任者や翻訳・再版に関与した主要関係者らへの聴取りを重ねて、具体的な知見を裏付けたのである。

#### (1) 主たる文献目録

Gli Operaismi di Derive/Approdi  
<http://www.autistici.org/operaismo/>

Archivio Primo Moroni / cerca con ocap  
<http://www.inventati.org/apm/>  
<http://apm.ocap.net/>

Libreria Anomalia - centro di documentazione  
<http://www.libreriaanomalia.org/archivio/>

UniNomade  
<http://www.uninomade.org/>

Texas Archives of Autonomist Marxism  
<http://la.utexas.edu/users/hcleaver/txarchintro.html>

Zerowork  
<http://zerowork.org/>

Red Notes / LSE Red Notes Italian Archive  
<http://rednotes.net/>  
<http://archives.lse.ac.uk/>

Generation Online

<http://www.generation-online.org/>

Operaismo, etc. on libcom.org  
<http://libcom.org/tags/operaismo>

Bibliothèque diffuse | multitudes  
<http://www.multitudes.net/category/archives-revues-futur-antérieur-et/bibliotheque-diffuse/>

#### (2) 主たる文書館等の調査地

Centro di Documentazione Anarchica, ローマ  
Archivio Primo Moroni, ミラノ  
Internationaal Instituut voor Sociale Geschiedenis,  
アムステルダム

### 4. 研究成果

目的に対して各々以下の成果が得られた。

#### (1) 初期理論形成過程の検証

イタリア現地を訪問し、一次資料の蓄積およびその保管状態を確認、主要関係者に聴取調査を実施した。資料縦覧および目録検索方法を照会した結果、必ずしも目録化されていない貴重資料の存在をも確認、可能性必要性に応じて許諾を得て複写収集した。入手資料の読解により、かつて Quaderni Rossi誌上で展開されたオペライズモ初期の理論形成過程を分析、マルクス『経済学批判要綱』再読の重要性および社会学的調査の果たした大きな役割について新たな知見がえられたので、それらを論文として公表した。

具体的には、50年代から戦後イタリア左派知識人による社会学の批判的受容があった事実を解明した。すなわち、共同調査という理念は政党と知識人、ないしマルクス主義と社会学との関係をめぐる論争のなかで涵養されたのであり、英語圏ではほとんど知られていないダニロ・モンタルディなどによる豊富な調査実態を伴う、それじたいが理論と実践の相互作用のなかで生み出されたのだった。

#### (2) 世界的な受容過程の解明

フランスおよびオランダの関係者および文書館等を訪問し、70年代末に同時代的世界的受容に大きな役割を果たした二次文献を踏査した。

具体的には、世界中の龐大な労働運動史料を収集しておりマルクス遺稿の収蔵でも有名なアムステルダムの社会史国際研究所IISG保有のオペライズモ関連資料から受容史上未解明の事実関係を精査し、イタリア現地に Archivio Primo Moroni等を再訪問のうえ、理論形成における調査方法論の視角からIISG資料を再調査したのである。

この結果、有名なネグリ亡命以前にも無名活動家・知識人ら多数の人的・知的交流がバリ・コネクションを形成していたことが判明した。その思想的波及効果の一事例としてフェリックス・ガタリにおける機械の概念を文献学的アプローチから詳細に検討の結果、いわゆるポスト構造主義におけるマルクスの再読とオペライズモ思想の相互作用について重要な示唆がえられた。これについても研究会で検討を重ね、論文にまとめた。

(3) オペライズモ研究の深化

国内においても関西アナーキズム研究会やオートノミズム研究会との研究交流を推進してきたところであるが、世界的にもオペライズモ再評価は研究期間中にもいよいよ本格化してきた。我々の研究もこの動向の一翼を担うものであり、調査方法論の重視・マルクス文献学の再評価といった共通項に加えて、メディア論・都市論などへの展開において、きわめて今日的な特質をみせている。

こうした現代社会論としてもアクチュアルな内容面については、イタリア現地からフランコ・ベラルディ(ピフォ)を招聘してオペライズモ研究会の総力をあげたラウンドテーブル会議を開催し、当日の講演予稿と討論記録は翻訳・編集のうえ一般誌に掲載した。

なお、都市論としては主に大阪を事例にミラノの社会センターおよび大阪府立大学上方文化研究センターにて口頭報告した他、戦後都市騒擾について国際的な共同研究成果をとりまとめた英文共著書を刊行したところである。

以上の成果をもって、オペライズモの理論形成を検証し、その世界的な受容過程を解明するという当初の研究計画を完遂することが一応なされた。

だが、オペライズモ研究の空白を埋めるといふグローバルな研究動向に照らせば、より深く社会的にも重大な課題が見出されたことを付記せねばならない。近年再刊の相次ぐ基本文献を再読すれば分かるとおり、その理論形成には具体的な社会調査に基づく方法論の再考が大きく寄与していたのであるが、そうした過去の調査実態は必ずしも判然としないばかりが見られたのである。この解明をこそ次なる研究課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

櫻田和也「ふたつの分子革命: あるいは地球計画から惑星の思考へ」『現代思想』41-9, pp.184-197, 2013, 査読無.

櫻田和也「ポストモダン都市における機械状分析のために」『生存学』6, pp.354-363, 2013, 査読無.

櫻田和也「ポストモダン都市における唯物論の詩学・試論」『現代思想』40-6, pp.210-219, 2012, 査読無.

櫻田和也「コンリチエルカ: 恐慌に内在する方法論」『現代思想』40-2, pp.192-202, 2012, 査読無.

櫻田和也「潜在する無数のメディア: 社会センター運動のひろく未来」『URP GCOE Report Series』14, pp.98-105, 2011, 査読無.

櫻田和也「コニタリアートの時間-唯物論」『現代思想』39-3, pp.146-163, 2011, 査読無.

他 4 件.

〔学会発表〕(計 7 件)

櫻田和也「大阪がこわれるとき」『南大阪地域学会』招待講演, 大阪府立大学 上方文化研究センター, 2013年9月21日.

北川眞也, 櫻田和也 ‘Le pazzie nella quotidianita della societa giapponese.’ *Archivio Primo Moroni* 公開討論会, Libreria Calusca Mialno, Italia, 2013年9月9日.

フランコ・ベラルディ(ピフォ), 杉村昌昭, 伊藤公雄, 水嶋一憲, 酒井隆史, 櫻田和也 「Crisis/Spasm: 恐慌に内在する理論とは?」オペライズモ研究会ラウンドテーブル会議, NPO法人記録と表現とメディアのための組織 [remo] 大阪 2013年6月23日.

北川眞也, 櫻田和也 ‘I "senza diritti" e l'autogestione in Giappone: nucleare, precari, casa.’ *Archivio Primo Moroni* 公開討論会, Libreria Calusca Mialno, Italia, 2012年3月1日.

櫻田和也「イタリア 鉛の時代 以降の社会センター」都市研究プラザ 第2回 国際ラウンドテーブル会議 『都市の世紀を拓く』大阪国際交流センター 2011年12月2日.

他 2 件.

〔図書〕（計 2 件）

Benjamin Fraser, Andy Merrifield, Les Roberts, Malcolm Alan Compitello, Marc James Léger, Cayley Sorochan, Heather A. Vrana, Jeff Hicks, Kimberley DeFazio, Jelle Versieren, Brecht De Smet, Manuel Yang, Takeshi Haraguchi, Kazuya Sakurada "*Marxism and Urban Culture*." Lexington Books, 282pp. 2014.

他 1 件.

〔その他〕

ホームページ等

<http://rootless.org/operaismo/>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

櫻田 和也 (SAKURADA, Kazuya)

大阪市立大学都市研究プラザ 特任講師

研究者番号：70555325